

CODE 海外災害援助市民センター
2005 年度事業計画
2005. 4. 1～2006. 3. 31

◆事業実施の基本方針

阪神淡路大震災から10年が経過した1月18日から22日まで開催された国連防災世界会議の中の2005年1月20日に、CODE主催で「震災10年と市民社会」をテーマにシンポジウムが開催された。この国連防災世界会議では兵庫行動枠組みが採択され、特にボランティアに期待する文言が明記された。

さて私たちは10年前に、「暮らしの再建」を重要課題に掲げ、「最後の一人まで」を合い言葉に、復興の道を歩んできた。この間に、「支えあいは自立から」という大切な学びを得てきた。国内をはじめ、支えあいは国境を越えて広がってきた。ともすれば憎しみの連鎖が広がりつつあるが、支えあいの連鎖が大きく広がってきた。私たちは、世界中のどこで災害が発生しても、可能な限りすぐさま被災者の傍に寄り添ってきた。阪神淡路大震災で学んだ「最後の一人まで」が実現するまで支援を続け、共に歩み続けることは、国内外でも同じである。支援の視点は基本的な人権の尊重であることはいままでもない。

ところで、これまでの10年間34回で、被災地の文化や宗教を尊重しながら、実に多彩な支援活動を重ねてきた。これからも、これまでと同様、被災当事者の暮らし再建を第一に掲げ、次世代を担う子どもたちや、コミュニティの核として存在する女性、障害者や高齢者、外国人、マイノリティなどに特に配慮していきたい。

これからの大きな課題は「予防防災」である。この観点からも災害と向き合うことが求められている。だからこそ、これまでの災害後の経験がこれまで以上に活かされなければならない。このことを我々の今年度の大きな課題とする。

【海外災害（地）への救援活動事業】

以下に挙げているものは2005年5月時点で既に取り組んでいるものだが、支援が必要とされると判断される災害が発生した場合は、随時、救援活動を立ち上げていく。

事業名	イラン南東部地震救援プロジェクト
実施日時	随時（2003年12月～取組）
実施場所	イラン・バム
受益対象者の範囲及び予定人数	対象地域住民
実施内容	<p>2004年度に引き続き AHKK（働く子どもを守る会）をカウンターパートとし、支援活動を継続する。</p> <p>前年度、新ホール建設支援を行い、現地では子どもたちの「場」として定着しつつある。新年度は、この新ホールを中心として、子どもだけの場としてのみではなく、女性支援、コミュニティホール建設支援など新たな事業を現地の状況を踏まえながら拡充する。</p> <p>またバムの復興歌として広まっている「しあわせ運べるように」の KOBE とバムの文化的交流を継続して、支援を行う。</p>
支出見込（千円）	15,275

事業名	イラン・ザランド地震プロジェクト
実施日時	随時（2005年3月～取組）
実施場所	イラン・ザランド
受益対象者の範囲及び予定人数	対象地域住民
実施要領	バムと同じケルマン州内にあることから、カウンターパートである AHKK をとおして、集まった募金で支援活動を行う。
支出見込（千円）	112

事業名	アフガニスタン救援プロジェクト
実施日時	随時（2002年7月～取組）
実施場所	アフガニスタン
受益対象者の範囲及び予定人数	対象地域住民
実施内容	2004年度に引き続き、カブール北部ショマリ平原を対象とした「ぶどう畑再生プロジェクト」を中心に支援活動を継続。前年度のアフガニスタンからの報告により、貸付した農家の約半数が半額を返済し、そのお金で新たな貸付を行ったという期待できる動きができたので更に定着させる。
支出見込 (千円)	3,594

事業名	アルジェリアプロジェクト
実施日時	随時（2003年5月～取組）
実施場所	アルジェリア
受益対象者の範囲及び予定人数	対象地域住民
実施内容	2003年6～7月に現地を訪問したクワテモック（メキシコ在住・CODE海外研究員）等を通じて支援プログラムを確定し、集まった募金を被災地に届ける。
支出見込 (千円)	2,118

事業名	スマトラ沖地震津波プロジェクト
実施日時	随時（2004年12月～取組）
実施場所	スリランカ・インドネシア・タイ・マレーシア・インド
受益対象者の範囲及び予定人数	対象地域住民
実施内容	<p>防災教育、就業支援、住宅支援、女性支援などをそれぞれの地域とカウンターパートナーに応じてきめ細やかに組み立てる。</p> <p>子ども防災教育の実施はスリランカ、タイ、マレーシア、インドネシアなどで動き始めた。今年度は各々の国で定着することを目指し活動する。</p> <p>漁民支援については、財源の限界もあることからスリランカとインドネシアに絞る。これまでの経験から、協同組合方式での再建活動を願っていることからその条件に見合う地域だけに限定する。</p> <p>住宅再建支援については、スリランカのみでの展開になる。これについてはJICAの「被災民の再定住」という事業に関連して検討したい。このJICA事業に専門家として派遣する要員との調整のもとに、例えば当初提案されていた「セメント・ブロック作り」も組み込んでいきたい。</p> <p>女性の自立支援事業については、当面スリランカの被害を受けた幼稚園の再建活動等を通して、より具体的に見える活動のみを対象としたいと考えているが、むしろ今回の津波災害後の再建にあたって、いま急がなければならないのは、仕事の確保である。被災者が自らの労働で、再建していく過程を支援することを念頭におきながら、例えばすでに現地NGOが展開しているマイクロクレジットによるスモールビジネスづくりの支援も視野に入れていきたい。またスリランカ東海岸カルムナイ地域にはCODEの現地カウンターパートナーとしてのカルムナイYMCAがあり、この地域にはYMCAを含めて約50のNGOがネットワーク組織をつくり活動していることが第3次調査で分かった。被災地におけるこうした複数のNGO活動によって、多くのボランティアが生まれてくるが、中でも被災者のキャンプ地や仮設住宅団地の中からボランティア志願があることが嬉しい。そこで仕事の確保の一環として、救援のためのボランティア活動の中から、スモールビジネスの起業を促したい。その時に、きっとマイクロクレジットとの連携が必要になると思う。他にも職業訓練センターやコミュニティセンターの建設などスリランカのYMCAは工夫を凝らした援助活動を展開しようとしている。こういう事業に対しても、我々は積極的に智恵を提供したい。</p> <p>インドについては、2001年のグジャラート地震時のカウンターパートSEEDSがアンダマン諸島で支援活動を展開しているので、その活動を支援する。</p>
支出見込 (千円)	8,315

事業名	被災地支援のためのクラフト・ポストカード事業
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	被災地域住民
実施内容	被災地の復興を側面から支援するため、被災地のクラフトや被災地をテーマにしたポストカードを取り扱う。2003年度より引き続き、阪神・淡路大震災後、被災者の自立・しごとづくり事業として生まれた「まけないぞう」をCODEの災害救援グッズとして扱うほか、他の被災地でも現地の支援に資するものであれば取り扱いを検討していく。
支出見込(千円)	42

【人材育成事業】

事業名	NGO ことはじめ
実施日時	年間を通じて4～6回
実施場所	神戸市内
受益対象者の範囲及び予定人数	大学生など100人（1回20人程度）
実施内容	本セミナーは入門セミナーと位置づけ、NGOの総論的話から具体的な災害救援や国際理解を深めるための講座を行う。
支出見込 (千円)	60

事業名	HAT ツアー
実施日時	年間を通じて1回程度
実施場所	神戸市内
受益対象者の範囲及び予定人数	大学生など15人
実施内容	HAT 神戸内の国際機関を訪問する。国際協力の現場で働くスタッフと交流することで、国際交流を身近に感じてもらうとともに、国際機関の役割やNGOとの連携の可能性について考える。
支出見込 (千円)	10

【災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	災害情報サイト (CODE World Voice) の運営
実施日時	随時 高校へワールドボイス出張/CODE 事務局でのワールドボイス作業は年間 15 回
実施場所	全国、高校生対象は神戸市内
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	CODE 発足当初からはじめた World Voice は、2002 年からは兵庫県の「NPO と行政の協働事業」としても認知を受け、特に終了年の 2004 年度は県下の高等学校にも協力を頂き、一定の成果を収めることが出来た。この UNOCHA リリーフウェブにある世界の災害情報は、理想的には英語だけではなく、各国の言語で訳されることである。現実には日本語翻訳しか出来得ていないが、継続していくことで多言語の可能性も見えてきている。KOBE には在日外国人高校生も就学しているという環境でもあるだけに、可能性を追求するとともに、より多くの高校生の参加を促したい。
支出見込 (千円)	466

【国内外のネットワーク構築事業】

事業名	関係機関の開催するセミナー、シンポジウムへ出席
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	理事関係者
実施内容	ネットワーク形成の一環として、可能な限り積極的に参加し交流を行う。
支出見込 (千円)	72

事業名	留学生セミナー
実施日時	春期に1回
実施場所	神戸市内
受益対象者の範囲及び予定人数	留学生20人
実施内容	JICA からの受託による留学セミナー。内容は阪神・淡路大震災の経験を海外に発信するために、留学生を招いたセミナーを行う(JICA 兵庫との連携事業)。
支出見込 (千円)	205

【「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名	協同組合の勉強会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	理事関係者
実施内容	2005 年度も継続して行われるアフガニスタン「ぶどう畑再生プロジェクト」や今後の支援にも活かされる可能性がある協同組合について勉強会や検討会を通じて理解を深めていく。
支出見込 (千円)	8

事業名	予防防災の取り組み
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	理事関係者
実施内容	発足当初から重要課題として掲げている課題である。今年は基本方針に掲げており、寺子屋的学習会を始める。やがて専門性を高めるとともに、予防防災のための智恵と技術を研究し、道筋を提案したい。外からの参加者にも働きかけるが、むしろ我々の関係者や事務局スタッフのスキルアップの機会としたい。
支出見込 (千円)	8

【「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	賛助会員数の増加
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	通常の活動を支える財源が乏しい。CODE の活動を財政的に支えている賛助会員数を増加することに取り組まなければならない。発足当初は、CODE 基金や CODE エイドという財源確保の方策も検討されたが、結論を得るにいたっていない。寄付の種類を増やすことの問題もあることから、特に団体賛助会員を念頭に入れて、新規の賛助会員数の増加を図ることで対処する。
支出見込(千円)	500

事業名	ボランティアの日
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	ボランティアに関心のある人100人(毎月10人程度)
実施内容	CODE ボランティアの定着化をはかるために、月1回日曜日にボランティアの日を設定する。ボランティアの内容は、CODE Letter の発送作業、翻訳作業、チラシ作り作業等である。震災後生まれたボランティアの文化が、様々な形を変えて受け継がれていくことが目的である。
支出見込(千円)	60

事業名	講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	現在の所、確定している派遣日程は以下の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> ● 6月7日国連地域開発センター(UNCRD)研修セミナー ● 7月6日龍谷大学講義 ● 2月後半 JICA アンデス災害医療研修
支出見込(千円)	869

事業名	機関誌とインターネット
実施日時	機関誌は毎月1回発行 インターネットは随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	機関誌は全国各地700人/団体 インターネットは不特定多数
実施内容	CODEの機関誌である「CODE レター」毎月1回を発行する。平行して、ホームページやメーリングリストを利用したインターネットによる情報発信も行っていく。特に英語による発信を充実させ、英語版ホームページを媒介として海外とのネットワークを拡充していく。
支出見込(千円)	708

事業名	救援プロジェクト報告会
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	CODEが行っている救援プロジェクトについて、各地の支援者と報告会を企画、実施する。市民による災害救援への一層の理解と、新たな支援者の獲得をはかる。
支出見込(千円)	132

事業名	冊子等の発行
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>2003 年度に実施した CODE 寺子屋の講演録（芹田代表理事による「国際的な人道援助と CODE」、鶴飼卓正会員による「災害医療と CODE の役割」、室崎益輝副代表理事による「予防防災と CODE の役割」）をブックレット化し、各 800 部発行する。</p> <p>また、これまでに作成したブックレット・グッズを継続して取り扱う。</p>
支出見込 (千円)	930

【その他本会の目的達成の為に必要な事業】

事業名	スタッフのスキルアップ
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	事務局スタッフ
実施内容	スタッフのスキルアップのため、関連するセミナーや研修会に積極的に参加する。
支出見込 (千円)	30